

浅口市 令和8年度 全国学力・学習状況調査の概要

令和8年10月

浅口市教育委員会事務局 学校教育課

【調査概要】

○浅口市内6小学校、1義務教育学校（前期課程）6年生児童234人、2中学校、1義務教育学校（後期課程）3年生生徒222人参加（R8/4/23～実施）

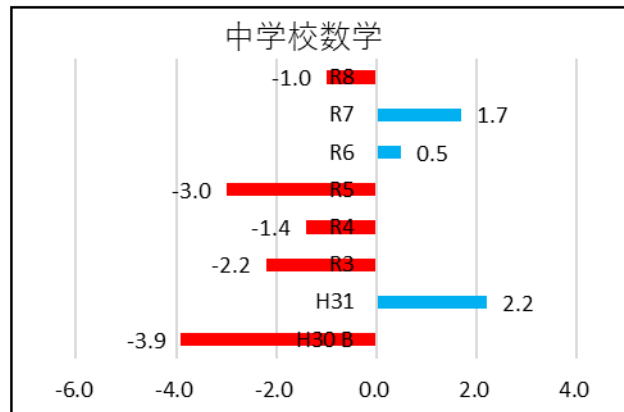
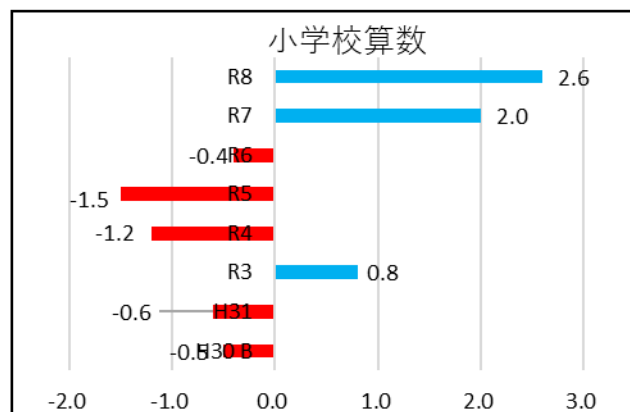
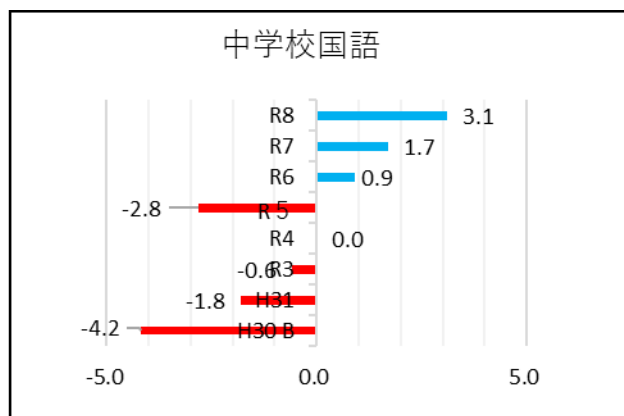
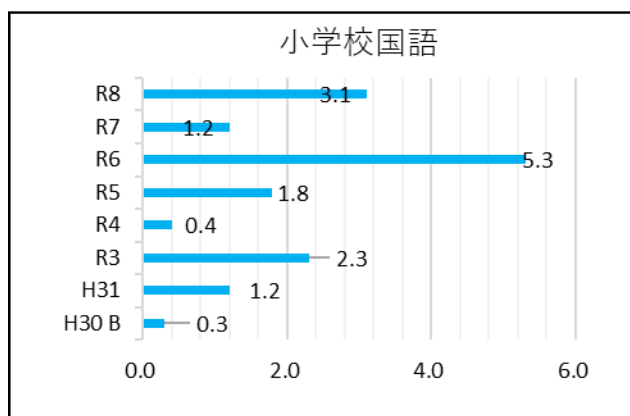
【学力調査の結果概要】

○平均正答率（英語はIRTスコアで表示：問題の難易度、正誤パターンの状況等から推定し、500を基準にした得点。）

		国語	算数			国語	数学	英語
小学校	浅口市	64.0	59.0	中学校	浅口市	67.0	56.0	495~504
	岡山県	62.0	55.0		岡山県	65.0	57.0	495~504
	全国	60.9	56.4		全国	63.9	57.0	499

○経年変化（浅口市の平均正答率と全国平均正答率との差）

※R2年度は実施なし



- 浅口市の平均正答率を全国平均と比較すると、小学校では、国語科で 3.1pt 上回り、算数科で 2.6pt 上回った。国語科では目的に応じて必要な情報を読み取る問題や漢字の正答率が全国平均よりも高く、情報を読み取る力が身についてきている。しかし、文章の構成や情報同士の関係を捉える力に課題がある。算数科では、平均正答率が 2.6pt 上回っている。特に、知識・技能の観点において正答率が高く、学習の基礎・基本は身についてきている。しかし、文章や図・表から必要な情報を整理して数量関係を捉え立式し、筋道を立てて説明する力に課題がある。

⇒ 両教科とも朝学習や放課後学習を活用した反復学習や、計算・漢字・語彙などの基礎事項の習熟指導などに取り組んできた結果であると考え。また、つまずきのある児童生徒への個別支援も継続的に行い、児童生徒の学習理解を確認しながら指導することで、基礎基本の定着に繋がった。今後は、国語科では、読み取った情報を問いに応じて適切かつ構造的に表現する論理的表現力の育成が求められる。算数科では、図表や問題文の情報を整理・視覚化し、筋道を立てて説明する力の育成が求められる。これまでに身につけた基礎知識を基に「根拠を明確にして書く・説明する」表現活動の充実や言語活動の工夫が求められる。

- 中学校では、国語科で 3.1pt 上回ったが、数学で 1pt 下回った。国語科では、漢字の読み書きや適切な言葉の使い方といった「言語に関する知識・理解」が身についてきている。しかし、情報を整理しながら自分の考えを書く力に課題がある。数学科では、図形領域における概念の理解や、筋道を立てて数学的に説明・証明することに課題が見られた。

⇒ 国語科では、小学校と同様に基礎事項の習熟指導などに取り組んだ成果が出ている。しかし、文章の構成や情報関係の捉え、問いに応じた論理的表現に課題が残った。これまでに身につけた基礎・基本を基盤とし、情報を整理して論理的に表現・説明するなど、さらなる言語活動の充実の工夫が求められる。数学科では、計算等の基礎が定着したものの、図形領域や筋道を立てた数学的説明に課題が見られた。問題文や図形の性質を図表へ整理・視覚化するなどして理解を深めていく必要がある。また、根拠とともに言葉や式で理論的に説明・推敲したり、文章や資料から要点となる部分を抜き出し、筋道立てて説明したり文章に書いたりする言語活動の工夫が求められる。

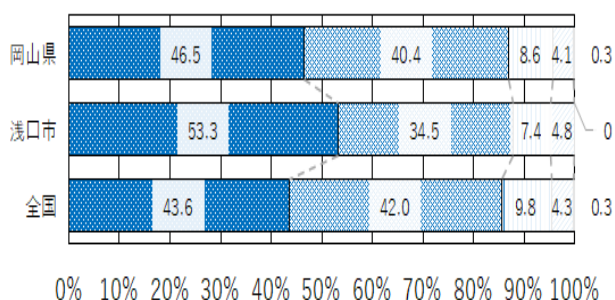
【学習状況調査の結果概要】

(1) 夢育

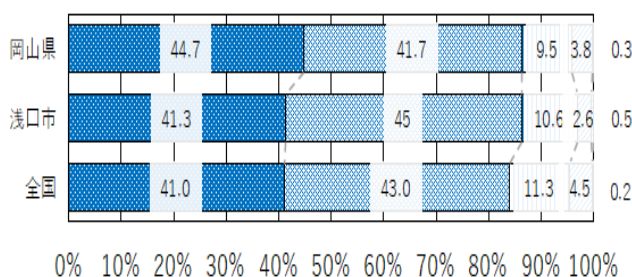
① 自分には、よいところがあると思う

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他・無回答

小6



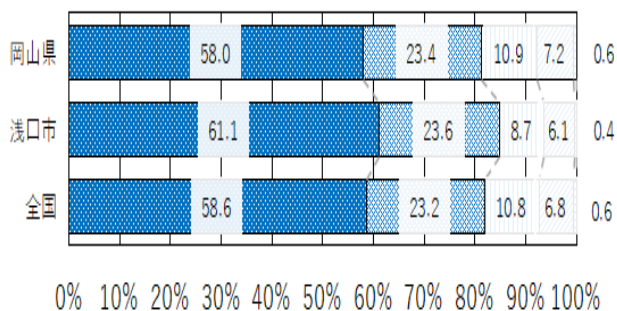
中3



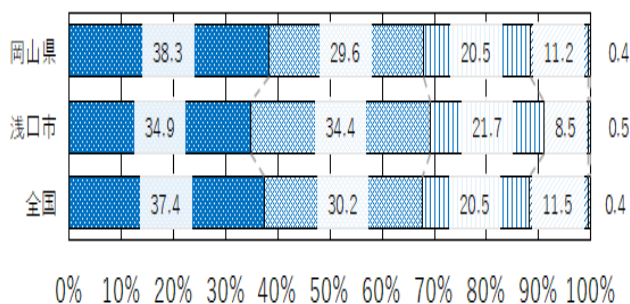
② 将来の夢や目標を持っている

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他・無回答

小6



中3



- 自分には、よいところがある、将来の夢や目標を持っていると肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均より上回っている。

⇒ 小中一貫教育とCS（コミュニティ・スクール）での地域の方々との交流の推進。

「認めて ほめて 励ます」学級づくりの推進。

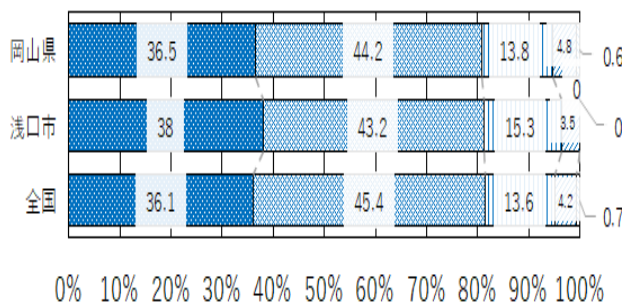
各校でのキャリア教育の充実。

(2) 授業について

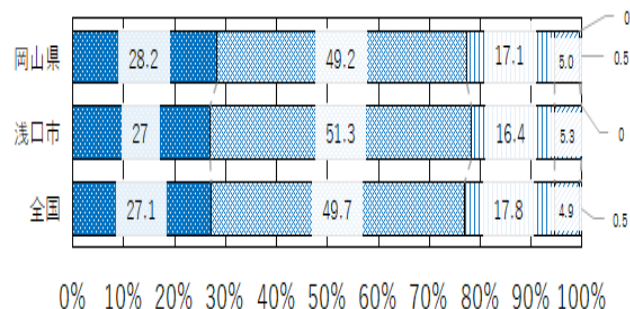
① 国語の授業の内容はよく分かる。

■あてはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他・無回答

小6



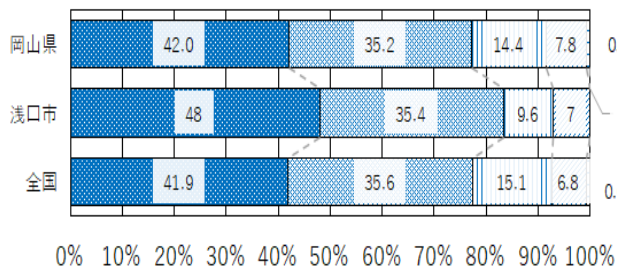
中3



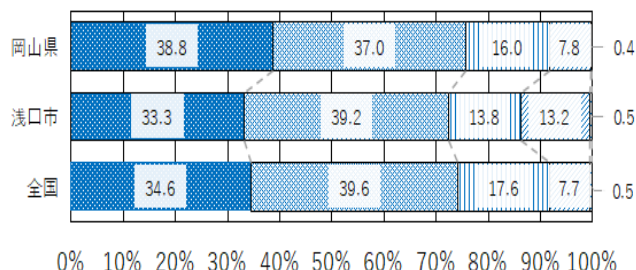
② 算数（数学）の授業の内容はよく分かる。

■ あてはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他・無回答

小6



中3



- 国語科では、肯定的な回答をした児童の割合は小学校、中学校ともにでは全国平均とほぼ同程度だった。算数（数学）科では、小学校では5.9pt上回り、中学校では1.7pt下回った。中学校は、学習する内容が難しくなることもあり、小学校と比べると肯定的な回答が減少している。

⇒ 全ての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業づくり。

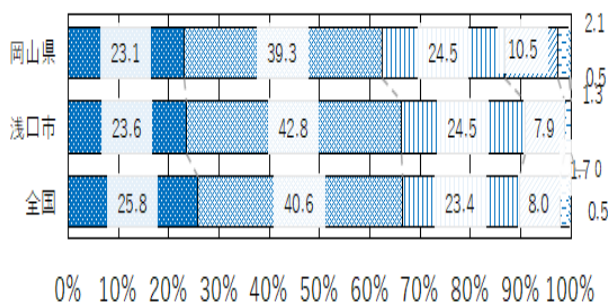
小中連携など小中一貫教育校・義務教育学校での情報共有や授業参観の実施。

（３）学びに向かう力

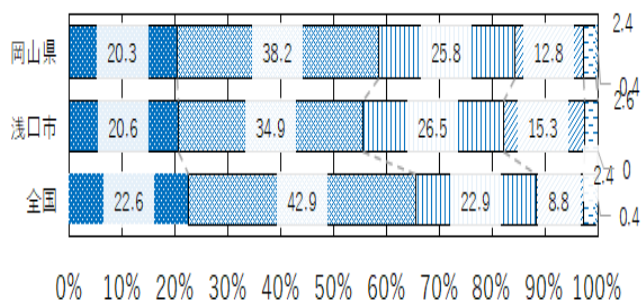
- ① 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

■ 発表していた ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表していなかった ■ 発表していなかった ■ 考えを発表する機会がなかった ■ その他・無回答

小6



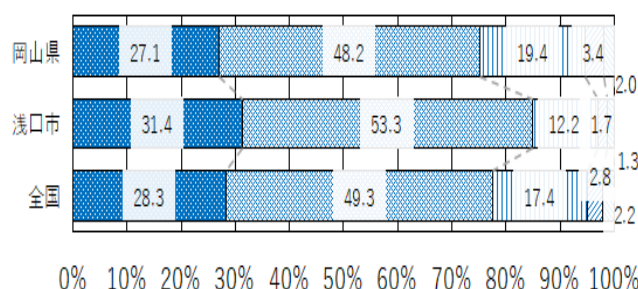
中3



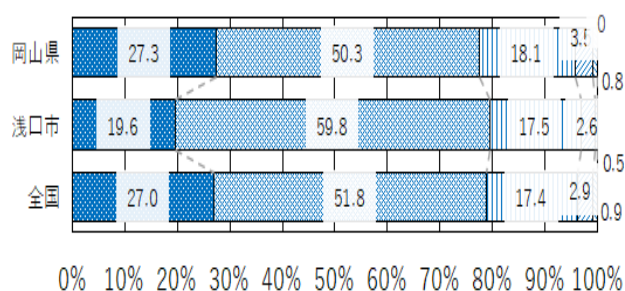
② 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他・無回答

小6



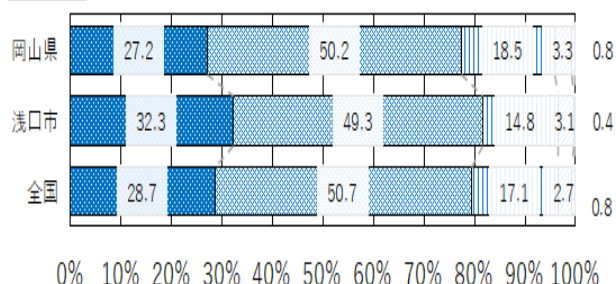
中3



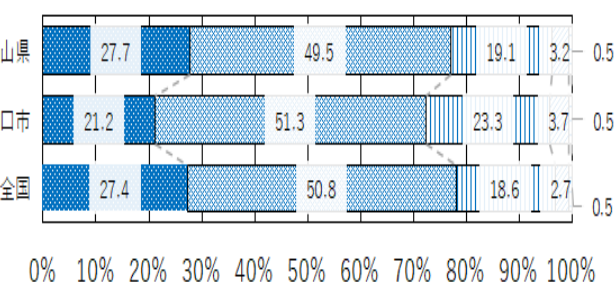
③ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ その他・無回答

小6



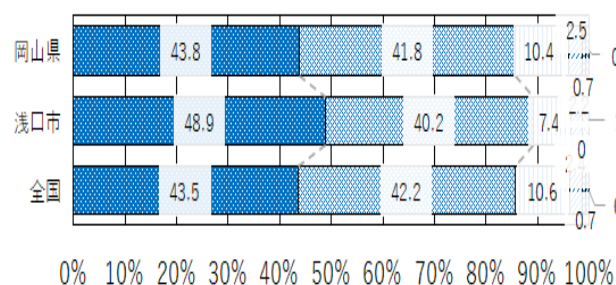
中3



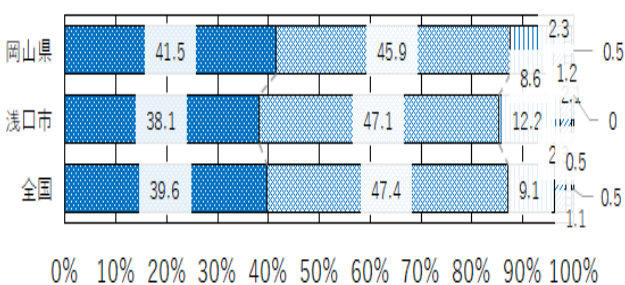
④ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない
 ■ 学級の友達 [生徒] との間で話し合う活動を行っていない ■ その他・無回答

小6



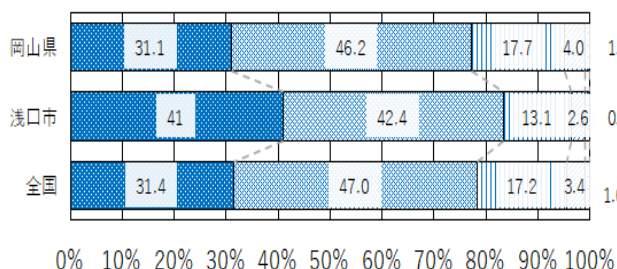
中3



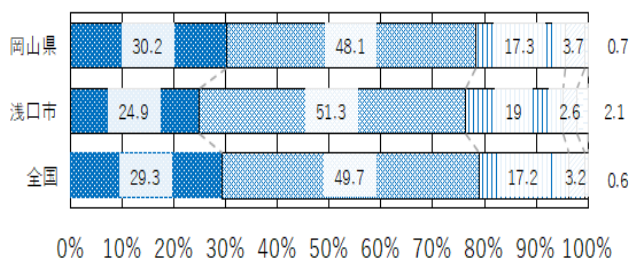
- ⑤ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■その他・無回答

小6



中3



- 「学びに向かう力」では、小・中学校間で学習態度の定着度に明確な差が見られた。

小学校では「自分で考え自分から取り組む（+7.1pt）」をはじめ、話し合い活動を通じた思考の深まり（+3.4pt）、学び方の工夫（+2.2pt）、振り返りの接続（+5.0pt）など、ほぼ全ての項目で全国平均を上回っている。一方、中学校では「自分で取り組む（+0.6pt）」で僅かに上回るにとどまり、学び方の工夫（-5.7pt）や振り返り（-2.8pt）、話し合い活動（-1.8pt）で全国を下回った。特に資料や文章を工夫して発表する設問は10ptと大幅に下回っている。

⇒ 小学校では、一人ひとりが「自分の学び」に主体的に向き合い、どう学ぶかを自分で考え選択できる学習活動が展開され、主体的に学びを進める力が身についてきている。中学校では、自発的に取り組む姿勢は全国平均を上回っているものの、学び方の工夫や自己評価、対話を通じた思考の深化において課題が見られる。今後は、小学校のように一人ひとりが「自分の学び」に主体的に向き合い、どう学ぶかを自分で考え選択できる学習活動の展開が必要である。授業において一律の指示にとどまらず、課題の解決方法や情報整理の手法、まとめ方などを生徒自身に選択させる場面を意図的に設定することが求められる。

また、学びのサイクルを回していくためにも、小学校、中学校ともに「次への生かし」を捉え直す質の高い振り返りを学習活動に取り入れることが求められる。

- ⇒ 小中一貫教育校・義務教育学校での9年間を見据えた特色ある教育活動の実践。

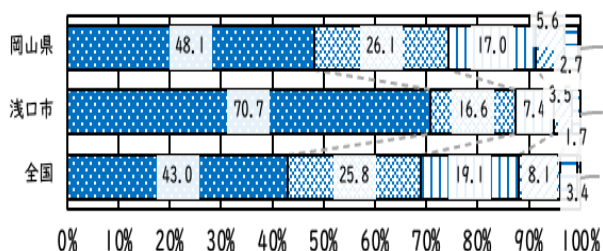
(4) ICT 機器の活用

①授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

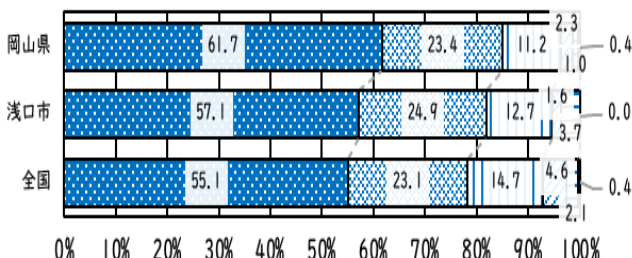
■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回以上 ■月1回以上 ■月一回未満 ■その他・無回答

※「ほぼ毎日」は、「1日に複数の授業で活用」及び「1日に1回くらいの授業」と回答した児童生徒の割合

小6



中3



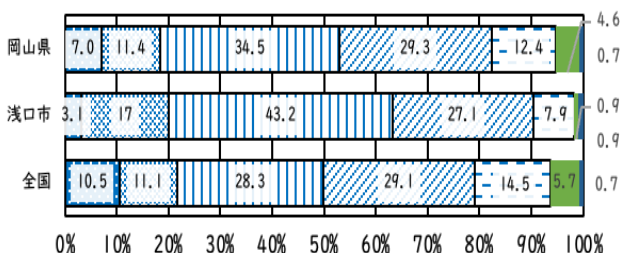
- 小学校では、肯定的な回答が全国平均を上回り、ICT 機器を活用した学習が積極的に行われている。中学校では、肯定的な回答が全国平均をやや下回る結果となった。
- ⇒ 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- さらに、今後は生成 AI の学習での活用が不可欠となるため、授業内での効果的な活用方法を工夫・模索していく必要がある。

(5) 家庭学習について

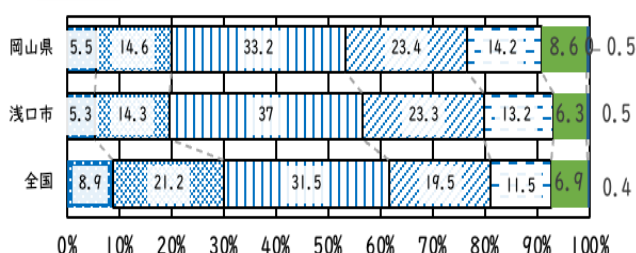
①学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

■3時間以上 ■2時間以上、3時間より少ない ■1時間以上、2時間より少ない ■30分以上、1時間より少ない
 ■30分より少ない ■全くしない ■その他・無回答

小6



中3



- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強している」について、1時間以上の割合が小学校は全国平均より13.4ポイントと大きく上回っているが、中学校は5ポイント下回っている。小学校では効率的な学習習慣が定着しつつあると考えられる。
- ⇒ タブレット端末を活用し、学校教育と家庭学習の連動。
- ⇒ 自分で計画を立てて学習に取り組むなど、自ら学びを進める経験を重ねることで、学びへの主体性や自己調整力の育成。

● 【市教育委員会事務局の今後の取組】

～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

□ 「主体的・対話的で深い学び」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- １人１台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 要請訪問・校内研等を活用して、各校の学力向上、発達支持的生徒指導の実現に向けた授業づくり指導の充実。
- 学習支援員（小・中・義務教育学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

□ 「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域の力を生活習慣の向上の取組に生かす。

□ 「認める、ほめる、はげます」ことに焦点を当てたお互いのよさを認め合える学級づくりの推進

- お互いの良さを認める、ほめる、はげます活動の継続。

□ 「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小中一貫教育・義務教育学校の推進

- 学習指導要領に基づく９年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- それぞれの小中一貫教育校・義務教育学校で特色ある教育活動の実践
- 中学校教員による小学校への乗り入れ授業の実施
- 小中一貫教育校・義務教育学校において目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。
- 「あさくち未来学」（社会に開かれた教育課程）の実践

